



健感発第 0722001 号
平成 17 年 7 月 22 日

各

都道府県
政令市
特別区

 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

フェンチオンの鳥類に対する毒性調査の結果について

ウエストナイル熱の媒介蚊駆除対策については、平成 15 年 6 月 18 日付け健感発第 0618002 号にて「ウエストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン」を配付し参考に供しているところであるが、今般、環境省自然環境局野生生物課長より、別添のとおりフェンチオンの鳥類に対する毒性調査の結果について通知があったことを踏まえ、同ガイドラインにかかわらず、ウエストナイル熱の媒介蚊対策においては、フェンチオンの使用を差し控えられるよう要請する。

なお、本通知は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の 4 第 1 項に規定する技術的な助言である。



平成 17 年 7 月 22 日
環自野発第 050722001 号

厚生労働省健康局
結核感染症課長 殿

環境省自然環境局
野生生物課長



フェンチオンの鳥類に対する毒性調査の結果について

フェンチオンの鳥類に対する毒性については、平成17年3月9日に環境省東北海道地区自然保護事務所が発表し、その後、追加調査を実施していたところですが、今般その調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

なお、本調査結果では死亡野生鳥類からのフェンチオンの検出はされておりませんが、タンチョウにおけるフェンチオンによる急性中毒死の報告をはじめ、フェンチオンの鳥類に対する毒性については国内外で報告されており、特に広域に空中散布する場合等、その使用方法によっては、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づいて指定されている国内希少野生動植物種を含む、野生鳥類への影響が懸念されている状況は変わりません。

つきましては、国内で農薬及び害虫防除用の薬剤として流通しているフェンチオンを含有する製品の使用に際しては、野生鳥類への影響があることに留意されるよう、フェンチオンを使用する関係者に対する周知方ご協力願います。

タンチョウ、オジロワシ及びオオワシの死亡個体追加調査の結果について

平成17年7月22日（金）
環境省東北北海道地区自然保護事務所
所長：星野 一昭
次長：吉中 厚裕
担当：河合 広次
直通：0154-56-2345

平成14年に死亡したタンチョウが、フェンチオン（以下、「MPP」という。）による急性中毒であったことを受け、環境省東北北海道地区自然保護事務所では、タンチョウを含む希少鳥類へのMPPの影響について調査する目的で、冷凍保存されていたタンチョウ6検体、オジロワシ3検体及びオオワシ5検体について、北海道環境科学研究センターの協力の下、MPP検査を実施した。その結果、いずれの個体からもMPPは検出されなかった。

今回の調査では、必ずしも道東地域における野生鳥類の体内に広くMPPが蓄積されているという状況は確認できなかったが、過去にMPPの急性中毒により死亡した個体及び冷凍保存していた個体からMPPが検出されていることから、環境省東北北海道地区自然保護事務所では道東地域におけるMPPの使用実態等についても調査を実施しているところである。

1. 経緯

北海道網走郡女満別町において、平成14年10月に收容された2羽のタンチョウの死因が、有機リン系殺虫剤の成分であるMPPの経口摂取による急性中毒であったと判断された。

このことを受け、北海道環境科学研究センターの協力の下、釧路市動物園に冷凍保存されていた死因不明を含めたタンチョウの死体5検体についてMPP検査を実施したところ、2体からMPPが検出され、うち1体はMPPの経口摂取による急性中毒死であった可能性が高いと判断された旨、平成17年3月9日に東北北海道地区自然保護事務所より発表した。

今回は、さらに釧路市動物園に冷凍保存されていたタンチョウ6検体、環境省釧路湿原野生生物保護センターに冷凍保存されていたオジロワシ3検体及びオオワシ5検体について実施したMPP検査の結果をお知らせする。

2. 検査結果

北海道環境科学センターの協力の下、タンチョウ6検体、オジロワシ3検体及びオオワシ5検体についてMPP検査を実施した。その結果、いずれの検体からもMPPは検出されなかった。各検体の收容日、死因等については別表のとおり。

3. 今後の対応

本検査結果から、現時点では北海道において必ずしも野生鳥類の体内に広くMPPが蓄積されているという状況は確認できなかったが、過去にMPPによる急性中毒死事例が生じたこと及び收容したタンチョウの死亡個体からMPPが検出されていることから、MPPの使用方法によっては野生鳥類に対して影響を与える可能性は否定できないため、環境省東北北海道地区自然保護事務所では道東地域におけるMPPの使用実態等についても調査を実施中である。

別表：検査結果

	種名	年齢	収容年月日	収容場所	剖検所見	検査機関	MPP 検出の有無
今回検査	タンチョウ	9歳	2003/3/22	阿寒町	出血性腸炎	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	成鳥	2003/4/22	標茶町	列車衝突	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	幼鳥	2003/5/6	音別町	交通事故	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	成鳥	2004/3/16	池田町	電線衝突 (推定)	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	2歳	2004/6/2	豊頃町	交通事故	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	4歳	2004/9/24	釧路町	電線衝突	北海道環境科学研究センター	×
	オジロワシ	成鳥	2003/2/27	常呂町	感電	北海道環境科学研究センター	×
	オジロワシ	亜成鳥	2003/4/27	厚岸町	鉛中毒	北海道環境科学研究センター	×
	オジロワシ	亜成鳥	2004/12/10	根室市	風力発電施設衝突	北海道環境科学研究センター	×
	オオワシ	幼鳥	2004/12/21	浜頓別町	感電	北海道環境科学研究センター	×
	オオワシ	成鳥	2004/12/23	厚岸町	交通事故	北海道環境科学研究センター	×
	オオワシ	幼鳥	2004/11/18	常呂町	感電	北海道環境科学研究センター	×
	オオワシ	成鳥	2004/12/16	標茶町	感電	北海道環境科学研究センター	×
オオワシ	成鳥	2005/1/24	えりも町	鉛中毒	北海道環境科学研究センター	×	
H16年度検査 (参考)	タンチョウ	成鳥	2001/8/18	鶴居村	循環障害 (心不全)	北海道環境科学研究センター	○
	タンチョウ	成鳥	2003/9/14	阿寒町	真菌性肺炎のう炎	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	成鳥	2003/9/18	標茶町	うっ血性心不全 (未確定)	北海道環境科学研究センター	○
	タンチョウ	1歳	2003/11/4	豊頃町	骨折、臓器損傷	北海道環境科学研究センター	×
	タンチョウ	成鳥	2004/1/31	音別町	胸部打撲、肝臓破裂	北海道環境科学研究センター	×
H15年度検査 (参考)	タンチョウ	成鳥	2002/10/8	女満別町	臓器うっ血、脾臓融解 十二指腸弛緩	(独) 国立環境研究所	○
	タンチョウ	成鳥	2002/10/8	女満別町	臓器うっ血、脾臓融解 十二指腸弛緩	(独) 国立環境研究所	○

※検査試料には胸筋を用いた。